

産業別四半期見通し調査結果

(2018年10～12月期見通し)

■ 県内産業天気図

◇ 2018年7～9月期の現況

➤ 全17業種中、「晴れ（好調）」が4業種、「薄日（順調）」が6業種、「曇り（普通）」が5業種、「小雨（低調）」が2業種となった。

◇ 2018年10～12月期の見通し

➤ 見通しも、「晴れ（好調）」が4業種、「薄日（順調）」が6業種、「曇り（普通）」が5業種、「小雨（低調）」が2業種となった。方向感では、「横ばい」が17業種となっている。

天気図記号	2018年 4～6月期現況	2018年 7～9月期現況	2018年 10～12月期見通し
 晴れ（好調）	5 業種	4 業種	4 業種
 薄日（順調）	3 業種	6 業種	6 業種
 曇り（普通）	8 業種	5 業種	5 業種
 小雨（低調）	1 業種	2 業種	2 業種
 雨（不調）	0 業種	0 業種	0 業種

■ 10～12月期見通しのポイント

- 製造業では、国内外の設備投資需要の増加に伴い「工作機械」「半導体製造装置」「電子部品・デバイス」「光学・計器」の4業種が「晴れ（好調）」を維持する見通し。また「産業用機器」「自動車部品」「プラスチック製品」の3業種が「薄日（順調）」を維持する見込み。
- 非製造業は、「大型小売」「公共工事」は「小雨（低調）」が続くとみられる。一方、設備投資需要が強い「機械器具卸」、消費税増税を見据えた動きが強まる「民間工事」、製造業を中心に荷動きが活発な「貨物」は「薄日（順調）」が続く見通し。




















































照 会 先

一般財団法人 長野経済研究所
調査部（担当：桑井、久保田）
TEL：026-224-0501



<産業別天気図一覧(17業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。


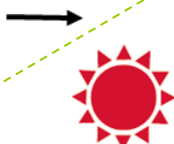
■調査期間：2018年9月中旬～10月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業17業種の133社

業 種	前期 (4～6月期)	今期 (7～9月期)	来期 (10～12月期)	
工 作 機 械			→	
半 導 体 製 造 装 置			→	
産 業 用 機 器			→	
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス			→	
自 動 車 部 品			→	
光 学 ・ 計 器			→	
プ ラ ス チ ッ ク 製 品			→	
飲 料 製 造			→	
食 料 品 製 造			→	
機 械 器 具 卸			→	
大 型 小 売			→	
自 動 車 販 売			→	
公 共 工 事			→	
民 間 工 事			→	
旅 客			→	
貨 物			→	
ホ テ ル ・ 旅 館			→	


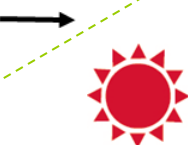
当研究所の注目業種

	10～12月期見通し
<p>産業用機器</p> 	<ul style="list-style-type: none">▶ FA機器は、国内は自動車関連業の設備投資により、工作機械や産業用ロボット向けを中心に順調な受注を見込む。海外は、米中の貿易摩擦の影響などから中国で投資先送りとなる等中国関連のFA機器の受注は減少が続く見通し。ただ、旺盛な半導体需要から製造装置向けの受注が全体をけん引していくとみられる。▶ 車載関連機器は、国内は新型車向けの製品が堅調を維持し、海外は米国向けの受注が底堅く推移する見通し。▶ 冷却機械や空調機器は、生産設備の導入に伴う需要が見込まれる。住設機器は、設備更新に伴う安定受注が続くとみられる。
<p>民間工事</p> 	<ul style="list-style-type: none">▶ 製造業で工場等の新設工事や、非製造業でもホテルなど宿泊業で新設工事が予定されている等、安定した工事量を維持する見通し。▶ 新設住宅は、消費税増税の関係から、19年3月31日までの請負契約締結または、19年9月30日までの住宅引き渡しを見据えて、展示場を訪れる人も増えてきており、住宅メーカーは来場者への対応にさらに力を入るとみられる。▶ 貸家は、消費税増税をにらみ既存の建物の増改築や建替え等のニーズもあり、底堅い需要が見込まれる。▶ 資材価格は高値圏にあるが、安定した建築需要に支えられ、徐々に販売価格への転嫁が進み収益は改善されるとみられる。


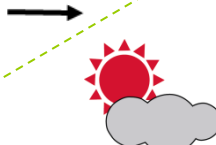
工作機械 : 国内の設備投資需要は好調に推移

<p>現況</p>	<p>国内は、主力の自動車関連を中心に、一般機械、半導体、建設機械などの業種で需要は好調だった。海外は、日系企業の製造拠点多い北米向けがけん引し、欧州向けも底堅く推移した。アジア向けは、中国ではスマートフォン関連の需要が減少したものの、自動車関連などが下支えし堅調だった。タイやインドネシアは自動車関連を中心に底堅かった。こうした中、工作機械の基幹部品であるリニアガイド（位置決め装置）等の部品不足は解消せず、工作機械の納期の長期化が続いた。</p>
<p></p>	
<p>見通し</p>	<p>国内は、自動車関連を中心に生産能力増強や省力化等の設備投資需要は高水準を維持する見込み。海外は、北米や欧州向けは自動車産業を中心に堅調な推移が見込まれる。アジア向けは、米中貿易摩擦の影響から、ユーザー企業が中国での設備投資に慎重になり、納期の延期や計画の縮小が見込まれるなど、受注は弱含む見通し。ただ、中国から東南アジアの工場へ投資を切り替えることが予想され、タイやインドネシアは堅調な需要が続く見込み。基幹部品の不足状況は続くことが予想される。</p>
<p></p>	


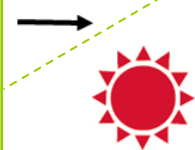
半導体製造装置 : 中国向けを中心に装置需要は安定推移を見込む

<p>現況</p>	<p>国内は、電子制御部品の搭載が進む自動車向けパワー半導体の生産ラインなどで設備の更新が図られ、関連装置は堅調に推移した。海外は、完成品需要の鈍化からスマートフォン関連の半導体生産はやや落ち着いた。中国では米中の貿易摩擦の影響から一部投資を先送りする動きもみられたが、データセンター用サーバー向けのメモリーやIoT製品向けのセンサーの生産が増加し、関連装置の需要は好調を維持した。需要増加に伴う人手不足や部品調達難に各社対応しているが十分な取り組みができず、生産の遅延が続いた。</p>
<p></p>	
<p>見通し</p>	<p>国内は、自動車向けのパワー半導体製造で、生産性向上や製品の高度化などに対応する装置へ更新する動きが需要をけん引するとみられる。海外は、スマートフォン向けの半導体生産の伸びは鈍化するものの、顕著な落ち込みには至らない見込み。さらに、中国を中心にメモリーやセンサなどのニーズが増加し、半導体製造装置の需要は安定的に推移する見通し。業界全体で、人手不足に対する人員配置の見直しや設備投資、部品調達難に伴う調達先の見直し等が進むとみられるが、生産遅延の解消には時間を要する見込み。</p>
<p></p>	


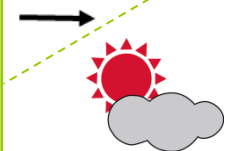
産業用機器 : 海外向けで需要鈍化するも、順調を維持

<p>現況</p>	<p>FA機器は、国内は自動車関連製造に用いられる工作機械や産業用ロボット向けなどを中心に、受注を確保した。海外は、米中の貿易摩擦問題を背景に、中国からの受注減少が顕在化した。半導体製造など生産が好調な業種に支えられ、全体的には大幅な落ち込みには至らなかった。車載関連機器は、国内は新型車向けの製品が底堅かったほか、海外も米国向けが堅調だった。冷却機械や空調機器は、生産ラインへの設備投資増加に伴い受注が伸びた。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は、設備の更新などにより安定受注となった。</p>
<p></p>	
<p>見通し</p>	<p>FA機器は、国内は自動車関連業の設備投資により、工作機械や産業用ロボット向けを中心に順調な受注を見込む。海外は、米中の貿易摩擦の影響による受注減が継続する見通し。ただ、旺盛な半導体需要に伴い製造装置向けの受注が全体をけん引していくとみられる。車載関連機器は、国内は新型車向けの製品が堅調を維持し、海外は米国向けの受注が底堅く推移する見通し。冷却機械や空調機器は、生産設備の導入に伴う需要が見込まれる。住設機器は、設備更新に伴う安定受注が続くとみられる。</p>
<p></p>	


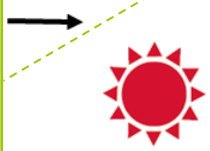
電子部品・デバイス：半導体関連の需要は堅調、車載用は好調が続く見込み

現況	
	<p>スマートフォン向けは、新機種の生産が立ち上がり生産水準は高まった。ただ、買い替えサイクルの長期化などもあり、前年の水準には届かなかった。一方、車載用電子部品は、車の電子化が続く中、国内・海外ともに需要は強く、受注は好調だった。また、中国等を中心に半導体関連需要は強く、製造装置に組み込まれる電子制御部品も高い受注水準を維持した。</p>
見通し	
	<p>スマートフォン向けは、例年、期の前半まで高い生産水準が続く時期であるが、前年に比べるとやや下回る見込み。家電やパソコン関連は、米中貿易摩擦による中国から米国への輸出減が与える受注への影響が懸念される。一方、自動車向けは駆動装置をはじめ、ブレーキ、ステアリングなどさまざまな領域で需要は強く、受注は好調を維持する見通し。世界的な半導体需要は続くともみられ、製造装置に組み込まれる電子部品の受注は堅調を見込む。</p>


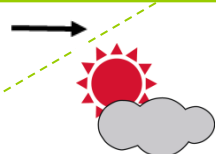
自動車部品：北米向けは順調も、米中貿易摩擦の影響を懸念

現況	
	<p>国内は、売れ行きが好調な普通車や軽自動車などの新型車向けを中心に受注は堅調だった。海外は、北米向けは、日系メーカーが販売に力を入れる多目的スポーツ車（SUV）などが好調で、受注は順調に推移した。アジア向けは、タイやインドネシアで新車販売が増加し、受注は順調だった。中国は、米中貿易摩擦の影響から一部で受注減少の向きもあるが、日本車に対する需要は底堅く、部品受注は堅調だった。豪雨等自然災害に伴い、サプライチェーンが寸断された影響で部品の供給が遅延し、生産に遅れが生じた企業もみられた。</p>
見通し	
	<p>国内は、モデルチェンジが一段落し新たな部品受注の増加は限定的とみられるが、普通車や軽自動車需要は引き続き堅調で、全体として受注は安定的に推移する見通し。海外は、北米向けは、多目的スポーツ車（SUV）を中心に好調な需要が維持され、引き続き順調に推移する見込み。アジア向けは、東南アジアは新車販売の増加が続くとみられ、受注は増える見通し。中国は、米中貿易摩擦の影響による景況感の悪化などに伴う新車需要の鈍化が見込まれ、受注の減少が懸念される。</p>


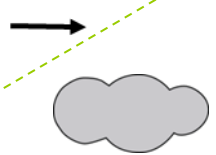
光学・計器：光学は自動車関連で、計器はガスメーターで好調が続く

現況	
	<p>光学機器関連は、スマートフォン向けは、一部に機種ごとの切り替え等の要因から受注が減少した企業もみられたが、総じては堅調だった。光通信関連や半導体製造装置等に搭載される光学機器の受注は順調に推移した。自動車向けのLEDヘッドランプは好調で設備を増強する企業もみられた。事業者用プロジェクター向けのレンズユニットは底堅く推移した。計器関連は、中国・台湾など海外を中心に建設機械や半導体製造装置向けの受注が好調だった。ガスメーターも、国内は取り替え需要により受注は順調で、海外はアジア向けが増加した。</p>
見通し	
	<p>光学機器関連は、スマートフォン向けの受注は横ばいの見通し。光通信関連は市場の在庫調整等もあり一服する見込み。半導体製造装置向けなど産業用は順調を維持する見通し。自動車向けは、モデルチェンジ車種を中心にLEDヘッドランプ等で好調が続くとみられる。プロジェクターのレンズユニットは高輝度の製品を中心に受注は安定して推移する見通し。計器関連は、アジアを中心に半導体製造装置及び建設機械向けで順調な推移が予想されるほか、ガスメーターは、国内は引き続き取り替え需要が見込まれ海外はアジア向けが好調な見通し。</p>


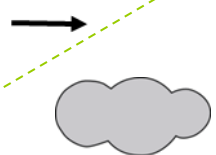
プラスチック製品 : 自動車向けは底堅く、化粧品容器は好調維持

<p>現 況</p>	<p>スマートフォン向けは、受注は順調だったものの前年と比べるとやや低い水準にとどまった。OA・情報機器は、複合機などの部品受注が底堅く推移した。自動車関連は、人気車種を中心にコネクタやブレーキなどの部品受注が順調だった。容器類は、高品質な国内メーカーの化粧品に対する海外からの需要が旺盛で、容器の受注が高水準を維持したほか、猛暑により飲料向けペットボトルの受注が増加した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>スマートフォン向けは、生産が高水準を維持する時期であり順調を見込む。OA・情報機器は、複合機などの受注が安定的に推移する見通し。自動車関連は、国内外ともに、人気車種のコネクタやブレーキなどの部品受注は順調が続く。容器類は、中国を中心に海外で人気の高い化粧品向け容器の需要が引き続き高い水準を維持するとみられ、受注は好調を維持する見込み。</p>
	


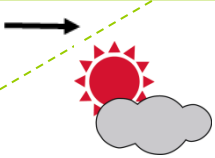
飲料製造 : 清酒・ワインは需要期を迎えて販売増を見込む

<p>現 況</p>	<p>清涼飲料水は夏場の最需要期に加えて例年以上の猛暑もあり、ミネラルウォーターや茶系飲料の需要が前年を上回った。果汁・野菜飲料は例年並みの需要となったが、台風や長雨の影響でトマトなど原料の調達に支障が生じた。清酒は普通酒の落ち込みが続くものの、特定名称酒や夏限定の生酒・冷酒などで需要を確保した。ワインは、国産原料を用いた日本ワインの人気銘柄を中心に需要は安定した。飲料業界全体では、ダンボール等の包装資材価格や物流費が高値で推移し、収益を圧迫した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>清涼飲料水は気温の低下に伴い需要は落ち着くが、ホット飲料や健康に配慮した商品などを中心に、例年並みの生産量を見込む。果汁・野菜飲料は、夏場の原料調達の不足が影響する商品については、例年の生産量を下回る見通し。清酒は、年末の最需要期に向けて販売促進が進められる中、特定名称酒に加え、新たな顧客層に向けてアルコール度数の低い発泡清酒（スパークリング清酒）などで需要喚起を図る。ワインも醸造期を迎え、新酒や人気銘柄などの需要が高まるとみられる。</p>
	


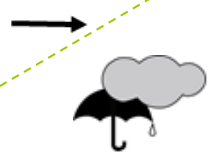
食料品製造 : 健康関連など高付加価値商品の販売は堅調に推移

<p>現 況</p>	<p>味噌は、即席などの需要が堅調だった。製粉は、猛暑の影響から麺類の需要が拡大し、受注は前年を上回った。また、猛暑に伴い調理の手間が少ない簡便な商品に対する需要が高まり、乾燥食品などで受注の増加もみられた。加工肉や大豆関連製品、コンビニ向け惣菜は、健康や安全志向の付加価値の高い商品が堅調だった。全体として、円安進行や自然災害により原材料価格が上昇したほか、物流費、燃料費等のコストが増加し、収益を圧迫した。また、人手不足により受注を抑制する動きが一部企業でみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>味噌は、昨年から続いた新製品投入の動きは一服するが、即席など簡便さを訴求した商品の需要は底堅く推移するとみられる。製粉は、年末の受注増加などから引き続き前年を上回る販売量が期待される。また、乾燥食品などは簡便性の高い商品に対する需要の拡大から、関連商品の販売は前年を上回る見込み。加工肉や大豆関連製品、コンビニ向け惣菜は、健康関連など高付加価値商品の販売が堅調に推移するとみられる。一方で、原材料価格、物流費といったコストの上昇が引き続き懸念される。</p>
	


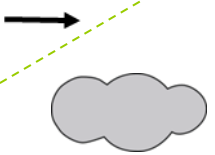
機械器具卸 : 省力化ニーズの高まりから、機械需要は順調に推移

<p>現 況</p>	<p>工作機械やF A機器などの機械需要は、工場ラインの省力化ニーズの高まりから自動車関連メーカーを中心に順調に推移した。専用機などの一部機械では納期の長期化が続いた。猛暑の影響から例年と比べ空調機器の受注が拡大した。製造業全般で生産が活発であることから、機械に取り付ける切削用工具類や金属板等の消耗品の受注は好調だった。配線機器や分電盤などの電設資材の受注は、一般住宅向けや民間の拠点整備などは堅調であったものの、公共工事での大型案件は少なく、全体では伸び悩んだ。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>多くの業種で省力化のニーズは高く、機械需要は順調な見通し。一方で、専用機を中心とした一部機械の納期の長期化は解消されないとみられる。消耗品の受注は自動車関連メーカーを中心としては高い生産水準が続くため、安定的に推移する見通し。仕入価格や物流費の上昇が見込まれているが、販売価格の引き上げは難しく利益を圧迫することが予想される。電設資材は、民間工事では工場建設などはあるものの、公共工事での大型案件は少なく、全体では取扱量は横ばいで推移する見込み。</p>
	


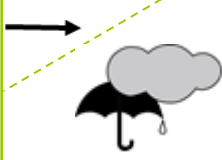
大型小売 : 冬物商品に期待するも、暖冬による売り上げへの影響を懸念

<p>現 況</p>	<p>百貨店は、例年に比べ早く梅雨明けし気温の高い日が続いたことから、外出が控えられ来店客数の減少につながった。化粧品などの雑貨は総じて堅調だったものの、夏物衣料の動きは鈍く、衣料品が伸び悩んだ。スーパーは、猛暑による影響から野菜の相場高が続いたことから生鮮食品の売り上げが増加したほか、飲料や総菜なども好調だった。一方、消費者の節約志向は強く、ドラッグストアなど食料品を扱う業態との価格競争が続くなど、収益環境は厳しいものとなった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>百貨店は、物産展などを中心とした催事で集客を図る見込み。化粧品などは堅調な推移が予想されるほか、お歳暮ギフトなどの売り上げは、ほぼ前年並みとなる見通し。一方、衣料品は客数の減少などから、冬物衣料を中心に苦戦が予想される。スーパーは、生鮮食品を中心に食料品は堅調な推移が見込まれるものの、暖冬傾向との予報もあり、鍋物食材など季節商品の売り上げへの影響が懸念される。また、消費者の低価格志向は今後も続くことが予想され、業態を越えた価格競争は激しくなる見通し。</p>
	


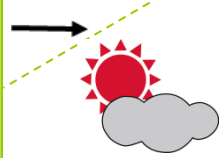
自動車販売 : 人気車種の需要一巡などから販売台数はやや伸び悩む

<p>現 況</p>	<p>小型車は、人気車種の需要が一巡したことなどから前年を下回ったものの、普通車や軽自動車は、モデルチェンジに伴う新型車効果がみられ、販売台数は前年を上回るなど堅調だった。全体として、消費者の安全性能に対する関心の高まりから、自動ブレーキなど消費者のニーズを満たす車種は販売が増加した。中古車は、低燃費車を中心に前年並みの販売台数だった。輸入車は、一部車種を除いて前年並みを確保した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>普通車や軽自動車を中心とした新型車への需要は引き続き強く、販売をけん引するとみられる。また、安全性能や燃費性能の高い車種の販売も底堅い見通し。一方で、小型車は人気車種の需要の一巡などに伴い、販売台数は前年を下回るとみられる。また、一部完成車メーカーのデータ不正による販売への影響も懸念される。中古車は、低燃費車種への底堅い需要から安定した販売量を確保する見込み。輸入車は、需要の服感からやや弱含む見通し。自動車販売全体の販売台数は、やや伸び悩むとみられる。</p>
	


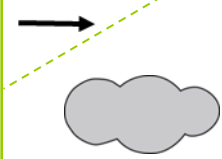
公共工事 : 大型工事の減少により低調に推移

<p>現況</p>	<p>国では三遠南信自動車道関連などのインフラ工事が、県では県立武道館やその他教育関係施設の建設工事といった大型工事が発注され、それぞれ前年並みの工事量を維持した。一方で、市町村からの発注が低調であったほか、広域連合では、ごみ焼却施設の建設など大型工事が重なった前年に比べ工事量が大きく減少し、公共工事全体では、前年の工事量を下回った。施工管理を行う技術者は依然として不足しており、改善はみられなかった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国や独立行政法人等ではインフラ関連工事が、市町村では大型の建築工事が予定されているほか、県では7月豪雨を受けた補正予算による防災・減災対策工事等が見込まれる。しかし、例年と比較すると大型工事の件数は減少傾向であり、全体の工事量も低調に推移する見込み。引き続き施工管理を行う技術者不足に改善の見込みはなく、一部企業では、応札の見送りも予想される。鋼材などの資材価格は引き続き高値圏で推移する見通し。</p>
	


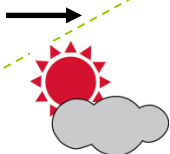
民間工事 : 設備投資、住宅ともに安定した工事量を維持

<p>現況</p>	<p>民間企業の建設投資は、製造業で産業用機器や食品関連をはじめ、複数の企業で工場等の新設があったほか、非製造業でも宿泊業などで新設・増築工事があり、堅調に推移した。新設住宅は、2019年10月に予定される消費税増税を見据え、住宅展示場の集客が好調なほか、契約数も徐々に増加し始めた。貸家は、相続税の節税策に加え、消費税増税に向けた既存物件の建替や、遊休不動産の有効活用策としての需要が高まり、前年を上回る水準となった。県内都市部では、分譲マンションの建設も増加した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>民間企業の建設投資は、引き続き製造業で工場等の新設や、非製造業でも宿泊業などで新設工事が予定されており、安定した工事量を維持する見通し。新設住宅は、持家で消費税増税を見据えた動きが強まり、契約数もさらに増えるとみられる。貸家は、消費税増税をにらんだ既存の建物の増改築等のニーズにより、引き続き底堅い需要が見込まれる。資材価格は高値圏にあるが、徐々に販売価格への転嫁が進み収益は改善されるとみられる。</p>
	


旅客 : 秋の行楽シーズンを迎え、例年並みの利用者数を見込む

<p>現況</p>	<p>観光路線バスは、天候に恵まれ高原を中心に乗客数は堅調に推移した。貸切バスはドライバー不足により需要に答えられないこともあり伸び悩んだ。高速バスは、お盆の帰省利用、ビジネス利用、観光利用ともに例年並みだった。燃料価格の上昇はバス業界各社の利益下押し要因となった。タクシーは、夜間利用はやや低調だったが、暑い日が続いたため、日中利用は通院やビジネス関連等の利用が増加した。鉄道の利用は例年並みであったが、地元のワイン等と食を提供するイベント列車が定期的に運行し人気を集めた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>観光路線バスは、12月後半以降、スキー関連で外国人観光客の利用による乗車数の増加が見込まれる。貸切バスは、秋の行楽シーズンを迎え団体旅行等の需要増が予想されるものの、ドライバー不足は解消されず、乗客数は例年水準にとどまる見込み。高速バスは、年末年始の帰省利用、ビジネス利用、観光利用ともに例年並みの見通し。タクシーは、通院やビジネス関連等の日中利用は堅調な推移が予想されるが、節約志向から夜間利用は伸び悩むとみられる。鉄道は、イベント列車の定期的な運行も予定されており乗車数は堅調となる見通し。</p>
	

貨物：自動車、建設機械部品の好調さを受け、需要は堅調な見通し

<p>現況</p>	<p>貨物量は製造業の荷動きが活発で、全体的に堅調に推移した。特に、工場向けの大型機械や自動車部品、建設機械部品の運送需要が高かったほか、猛暑のため飲料品の運送も伸びた。</p>
	<p>また、工事用の建設資材の荷動きも活発だった。運賃の値上げは、荷主との交渉が進展し広がりがみられた。しかし、荷物量増加により庸車代が上昇したことや、燃料費が上昇したことから利益への貢献は少なかった。西日本豪雨の影響により、西日本から九州にかけては鉄道輸送が一部運休になったためトラックが代替として利用され庸車不足にも拍車がかかった。</p>
<p>見通し</p>	<p>貨物量は全体的に堅調に推移する見通し。引き続き製造業の需要は高い水準を維持するとみられ、自動車部品や建設機械部品は好調が続く見込み。工事用の建設資材の荷動きは落ち着くとみられる。自社のドライバー不足等から庸車の需要が高まり、庸車代は高水準が続くと予想される。ただ、西日本豪雨の影響に伴う庸車不足は順次回復していく見込み。また、人手不足の影響等による人件費の高止まりや燃料費の上昇も見込まれ、運賃値上げの交渉は引き続き行われる見通し。</p>
	

ホテル・旅館：秋の行楽シーズンを迎え、堅調な利用を見込む

<p>現況</p>	<p>観光客の利用は、全体として堅調に推移した。8月上旬に開催された全国高等学校総合文化祭(信州総文祭)により、宿泊利用を伸ばした施設もあった。9月は2週続いた3連休で利用を伸ばしたが、一部で台風や大雨の影響によるキャンセルもみられた。ビジネス客の利用は、堅調な企業活動を背景に、都市部を中心に安定して推移した。人手不足の中、ホームページにAIを活用した自動応答ツールを用意して、予約客や利用客の問い合わせに24時間即時対応するなど、利便性向上を図る施設が増えてきている。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>秋の行楽シーズンを迎え、個人客を中心に堅調な利用が見込まれる。ビジネス客は、都市部を中心に引き続き安定して推移する見通し。外国人観光客は、スノーシーズンに向け順調な利用を見込む。ブライダルは、秋の人気シーズンを迎えるが、挙式形態の多様化などの影響を受け、件数・規模ともやや低調に推移すると見込まれる。ハロウィーンなどのイベントに対応した食事プランの新規設定や、ディナーショーの内容を充実させ、売り上げ増加を図る施設もみられる。</p>
